

機

家忠日記増補

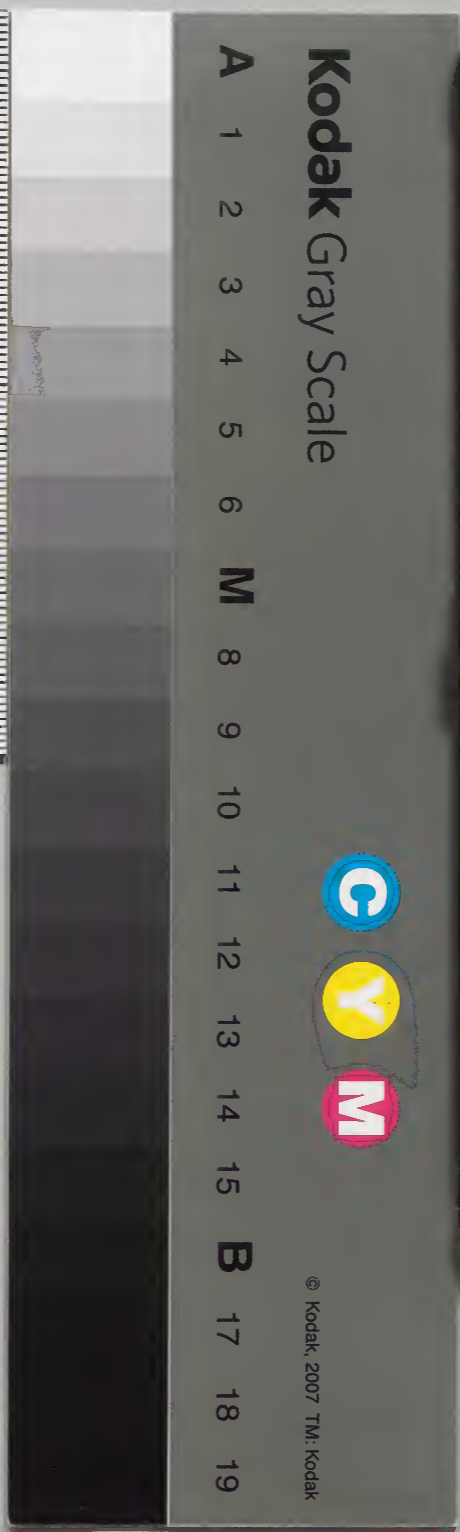
十二

内閣文庫			
天	三	三	和
函	二	四	書
三	五	七	
架	冊	八	類
		號	

(一 冊)



内閣文庫			
番號	和	32478	
冊數	25(12)		
函號	163	60	



Faint vertical Japanese text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical Japanese text, likely bleed-through from the reverse side of the page.



家忠日記追加卷之十二

天正十八年庚寅

七月大

自天正十八年七月
至同十九年七月



五日 小田原ノ城兵大二困メ遂ニ城禦

守リ難キ事シ慮テ氏直自ラ謀反人松田

憲秀シ殺メ山上強右衛門尉及ニ諏訪部

宗右衛門尉シ卒メ 大神君ノ御陣營ニ

来テ和シ乞フ 大神君命有テ曰是下ハ

我が晉也自稱スルニ是ラズ其赴シ羽柴
下總守勝雅ニ告テ秀吉ニ建スベキノ御
旨シ蒙リ氏直即勝雅ガ陣ニ往テ謂テ云
ク我ニ今秀吉ノ麾下ニ降ル是全ク臆シ
タルニ非ズ父氏政以下ノ城兵シ憐テ具
命シ助ケバ明日必ズ城シ去ルベシ勝雅
是シ秀吉ニ達ス秀吉是シ諾ス氏直悦テ
城ニ歸ル

六日 大神君ノ臣榊原式部大輔康政秀
吉ノ臣脇坂中務少輔安治及ヒ片桐東市
正直盛シメ小田原ノ城シ請取ラシメ給フ
七日 此日ヨリ九日ニ至テ小田原ノ城
七口ノ圍ヲ解テ城ニ籠ル所ノ兵シメ悉
ク城中ヨリ出サシム脇坂安治片桐直盛
是シ監メ味方ノ兵ノ粮藉シ割ス
九日 北条氏政其弟氏輝等醫師安柄カ完

二移ル秀吉ノ云ク今度吾レ東行ノ事
一偏ニ北条氏ヲ撃滅サンガ為也然ルニ
今悉ク是ヲ宥メバ前言偽ルニ似タリ氏
政氏輝ヲ殺メ氏直ヲ赦セント欲スルノ
由大神君ニ議ス大神君是ヲ諾シ給フ
十日大神君小田原ノ城ニ移リ給フ
十一日氏政氏輝兄弟田村安栖ガ宅ニ
於テ自殺スベキニ定ル是ニ依テ秀吉石

川備前守中村式部少輔蔭田權之助佐々
淡路守ヲ以テ檢使トス神原式部太輔康
政大神君ノ命ヲ奉テ同ク安栖ガ宅ニ
往ク石川中村等秀吉ノ旨ヲ述ント欲ス
氏輝是ヲ察メ湯沐ノ暇シ乞ヒ氏政氏輝
和歌ヲ詠メ自殺ス氏政十ニ北条美濃
守氏規是ヲ介錯シ其刀ヲ以テ共ニ自殺
セント欲ス檢使ノ族是ヲ劄止ス其間ニ

氏輝ガ侍童山角牛太郎氏輝ガ首ヲ懷取
テ走り出ル人皆驚テ是ヲ奪返スイマダ
幼稚ノ侍童其志神妙也ト諸人心腑ニ銘
メ是ヲ感ズ山角ガ所為大神君ノ台聽
ニ達シ彼レガ志ヲ感稱シ給ニ召テ麾下
ニ屬ス武列多西郡関戸ノ郷ニ於テ食邑
千石ノ地ヲ賜ル
氏政氏輝兄弟ノ首ヲ持テ秀吉ノ實換ニ

入ル秀吉云ク此是帝命ヲ畏レザル者
ノナリ則石田治部少輔三成ニ命メ浴ニ
指上セ一茶及橋ニ梟ス
十二日秀吉北条氏直シヲ高野山ニ赴
カシム北条義濃守氏規北条左衛門大夫
氏勝松田左馬助山上強右衛門尉大道寺
孫九郎内藤左近太夫諏訪部宗右衛門尉
金田大膳大夫等三十人凡私從ノ者三百

人同ク赴ク秀吉懇意シ加テ氏直二百人
扶持シ賜ル其後秀吉山上ノ寮シテ
野ヨリ泉堀興テ野ニ移ス翌年三月
辛又携別大坂ニ至リ信雄ノ宮ニ入ル
時秀吉河別ニ於テ築地一萬石シ氏直
與ル氏直痘瘡シ患テ遂ニ卒ス時三十一歳

十三日 秀吉小田原ノ城ニ入ル此日秀
吉関左八列シ以テ大神君ニ進セラレ
此外江別ノ地九萬石及ヒ石部関ノ地
四日市場白須賀中泉清見寺各一千石島

田二千石又是シ領シ給フ其以下諸將ニ
関國ノ割興ル尾別及ヒ北伊勢五郡ハ中
納言秀次三列吉田ノ城食邑十五万石
田三左衛門尉輝政三列岡崎ノ城食邑五
万石田中兵部太輔長正遠別濱松ノ城食
邑十二万石堀尾帶刀吉晴遠別懸川ノ城
ノ城食邑五万石山内對馬守一豊遠別横
須賀ノ城渡瀬左衛門佐駿河國中村式部

ニ我意ガヲ振廻ル無禮ノ巨杖フ持チ有ルベキ事
宜ヨシカラサルノ旨秀吉強クテ是レヲ諫サム
大神君一ツ且秀吉ノ憤イヲ止マ給ハンガ為ニ
重次シヲメ上ル總國小井戸ノ郷ノニ移ラシメ
食邑シヨク三千石ヲ賜ツテ警居キス重次遂ツニ此所
ニメ死ス
板部イタベ周江雪齋ユウセウ勇ユウニメ忠チアリ秀吉是レヲ感カ
メ彼レシガ死シ教カメ岡野オカノト姓シ改メテ秀吉

ノ麾下キカニ屬ス
十四日秀吉小田原ヲ發シメ奥列ニ赴ク
十五日秀吉武列江戸ニ至ル大道寺駿
河守ハ北条家ノ旧臣トメ降ラシ乞フテ城ヲ
避ケテ渡リシ剗利家景勝ガ先鋒ニ加リ八別
敷城ノ郷導トナル其餘ノ指シ不義ノ罪多キ
ニ依テ江戸ノ櫻田ニ於テ秀吉是レヲ殺ス
秀吉野別宇津宮ニ至ルノ時大神君ノ

臣本多中務太輔忠勝カクヲ招マシイテ胃カブト一ツ以テ
忠勝カクガ前マニ置シイテ秀吉ヒデキ謂イフテ云ク此コノ是コト傳ツタ工ク
間マク佐藤忠信サトウチカノガ胃カブト奥ウラ列レリ献ケズル所ト也ナリ
今イマ此コノ胃カブトノ蒙カフムルベキ勇士ユウシヲ擇タクニ汝ニシ其キレ
是コトニ當アツレリト忠勝カクガ勇敢ユウケンシ大オホヒニ美ミ稱ホト
メ是コトヲ授サヅク最モトモ武門ブクモンノ面目オモテナリ忠勝カク謝アガ
メ家寶カホウトシ是コトヲ子孫コノコニ傳ツタエ
成田下總守小田原ノ城中シロニ在アリ志シ秀

吉キチニ通ツジ軍グン功コウヲ勵ハセサント欲ホシスルト云フヘ
トモ隱カクレ謀マカ露ロ頭トウメ其キ約ヤク違ヒフニ依ヨテ秀吉ヒデキ是コト
シ怒イカツテ成田ナリタガ所トコロ領リヲ放ナツ秀吉ヒデキ野ノ別ワケ小コ山ヤマ
百々ヒツツ塚ツカニ旅リ館カンノ時トキ成田ナリタガ娘メシ召メテ是コトシ
寵愛テウアイス彼カノノ女メ父チチノ成田ナリタガ食邑シヨクナキ事コトシ
歎ナゲキ訶ツツル秀吉ヒデキ是コトヲ許ユルメ鳥山トリヤマ一ツ万マン貫クワンノ地チ
シ以テ成田ナリタニ與ユル

八月大

一日 大神君兵ヲ卒メ武別江戸ノ城ニ
移リ給フ是ハシ江戸ノ城ハ遠山
左衛門佐景政ガ居城也景政ハ北条ニ属
メ小田原ノ城ニ在リ其弟川村兵部太輔
シメ江戸ノ城ヲ守ラシム遠山丹波守景
及ニ真田サナタ隱政守二人志シ大神君ニ
通ジ大神君江戸ノ城ニ移リ給フ案内
者トメ台旆ニ先立テ江戸ノ城ニ来リ

川村兵部太輔及ニ景政ガ從卒等シ江戸
ノ城ヲ追ヒ出メ大神君ノ渡御シ成
奉ル此切ニ依テ遠山丹波守真田サナタ隱政守
ニ各加賜五千石舊領合テ一萬石シ賜ル
遠山サナタ真田サナタ此切ニ誇テ其加賜シ微ケテ
事シ恨テ其後江戸シ去テ關左八ノ秀吉
ニ屬セシト請フ秀吉云ク我ハ心ニ御セズ
謝テ敢テ神志ノ指揮タリ我ハ遠山真田
卿ノ身ヲ成テ許シテ是ニ依テ蒲生飛騨守
一萬石興ル年有テ後真田ハ大神君

ニ召返リシ食邑
五千石ヲ賜ル

十五日 秀吉長岡越中守忠興シメ食津

ニ居ラシメント欲ス忠興ガ云ク若シ政

事タラハ是ニ從ハン若シ恩賞タラハ縦

小國ト云トモ西國ニ居ラント請フ秀吉

是ヲ許メ會津輪ノ内大沼安積二本松五

郡四十二萬石蒲生飛騨守氏郷ニ與ル葛

西大崎三十萬石シ木村伊勢守父子ニ賜

リ伊達正宗ニ本地羽別長井郡采澤三十

萬石ヲ賜ル

七日 秀吉歸洛ニ赴ク國中廣校ノ負數

ヲ知ラシメカ為メ淺野彈正長政石田治奇

少輔三成大谷刑部少輔吉繼シ留テ奥州

シ檢地ス

此月 大神君采地シ御家人ニ賜ル上列

箕輪ノ城采地十二萬石井伊兵部少輔直

直政後二直政木神ノ命シ奉テ上總國

少多喜ノ城采地シ築テ是ニ居ル十萬石本多并務太輔忠

勝上ノ館林ノ城邑樂勢田ノ兩郡其外野

刈梁田郡ノ内采地十萬石神原式部太輔

康政相別小田原ノ城采地四萬石後五ノ

大久保七郎右衛門尉忠世下總國矢作ノ

城采地四万石身居彦右衛門尉元忠上別

厩橋ノ城采地三萬石平岩主討頭親吉上

刈藤岡ノ城采地三萬石松平新六郎本名

衛門後二号石上別碓氷ノ城采地三万石酒井

宮内太輔家次上總國久留里ノ城采地三

萬石大須賀五郎左衛門尉康高上別宮崎

采地二萬石真平義作守信昌上別鳴渡采

地二萬石石川左衛門太夫康通後長門ノ守

下總國古河ノ城采地二萬石小笠原信濃

守秀政上別白井采地二萬石本多豊後守

廣考上別應古采地二萬石牧野右馬允康
成上別吉井采地二萬石菅沼小大膳下總
國関宿ノ城采地二萬石松平三郎太郎康
元後二目幡武別寄西采地二萬石松平周
防守康重上總國佐賀ノ城采地二萬石内
藤弥次右衛門尉家長武別岩付ノ城采地
二萬石高力河内守清長上總下總ノ内采
地一萬二千石岡部内膳正長盛武別奈良

之利野川采地一萬二千石諏訪安藝守頼
忠武別忍ノ城采地一萬石松平主殿助家
忠武別河越ノ城采地一萬石酒井河内守
重忠武別羽生采地一萬石大久保治部太
輔忠憐後号相上別阿布采地一萬石菅沼
新八郎定盈後二織部下總國ノ内采地一
萬三千石久野三郎左衛門尉宗能武別東
方采地一萬石松平丹波守康長上別郡波

朱地一萬石松平和泉守家系下總國ノ内
朱地一萬石保科甚四郎正光後二肥後武
列八幡山朱地一萬石松平玄蕃頭清宗上
列松山朱地一萬石松平内膳正家廣下總
國相馬朱地一萬石菅沼山城守定政後改
豆列並山ノ城朱地一萬石内藤三左衛門
尉信成武列深谷朱地一萬石松平源七郎
武列本庄朱地一萬石小笠原掃部太輔信

嶺相列玉ノ輪朱地一萬石本多佐渡守正
信下總國佐倉領朱地一萬石三浦監物下
總國足戸朱地一萬石本曾三郎武列川
越領ノ内朱地五千石酒井右兵衛太夫忠
世上列布川朱地五千石松平勘四郎信一
後伊豆守豆列梅繩朱地五千石川日向守
ト号又家成市原ノ郷朱地五千石阿部伊豫守正
勝武列石戸朱地五千石牧野讚政守上總

國裳原采地五千石大久保次右衛門尉忠
佐奈化川采地五千石西尾隱岐守吉次相
別武列總列ノ内采地五千石高木主水正
清秀武列柄間采地五千石内藤四郎左衛
門尉正成上列三ノ藏采地五千石松平五
左衛門尉近正下總國佐倉領五千石山本
帶刀武列久志羅井采地五千石戸田左門
一西下總國佐倉領采地五千石本多縫殿

助武列見賀虎采地五千石三宅惣右衛門
尉康貞武列内野采地五千石三宅弥次兵
衛尉正貞武列ノ内采地五千石永井右近
太夫直勝上總國五井采地五千石松平紀
伊守家信相列中郡采地五千石青山常陸
介忠成武列ノ内采地五千石神谷弥五郎
相列當摩采地五千石内藤弥三郎正成
修理亮
武列葛蒲采地五千石柴田七九郎
卜号人

豆列下田米地五千石戸田三郎右衛門尉
忠次下總國小弓米地五千石西郷孫九郎
家貞カス後ト號ス武列河越領米地三千石酒井
與七郎忠利後ニ備後武列礼羽米地三千
石設樂是三郎貞先上總國小丹戸米地三
千石本多作左衛門尉重次上總國勝浦米
地三千石植村土佐守米忠下總國小南米
地三千石松平三郎四郎定勝後ニ隱岐上

列新川桐原米地三千石箱垣平右衛門尉
長茂此長茂是ヨリ先キ牧野右馬毛ニ從カ
參ノエ此年始テ大神君ノ麾下ニ屬ス
トナル米地三千石渡邊半蔵下總國飯沼
米地二千石松平外記伊昌上總國山口村
武列箱毛峯ノ御米地二千石塚内喜太郎
利定後ニ番武列ノ内米地千石高木善次
郎正次後ニ主水

九月大

一日 秀吉 洛陽ニ凱樂

十月小

奥別葛西大崎邊ニ一揆蜂起ス其比木村
伊勢守葛西ニ在城ス其子弥一右衛門尉
ハ大崎ノ城ニ在リ父子互ニ境シ隔ル事
覺束ナキニ依テ伊勢守ハ葛西ヲ殺ヌ大
崎ニ赴キ弥一右衛門尉ハ亦大崎シ出テ
葛西ニ往ク途中ニメ父子行逢テ時一揆

等兩城ノ通路シ塞テ木村父子シ前後ヨ
リ攻撃木村奮戦テ是ヲ拒グト云ヘトモ
一揆夥敷起テ競ニ攻ルノ間木村ガ兵狼
狽ノ離散ス伊勢守ガ從士成平左衛門
尉ガ守ル所ノ佐沼ノ城ハ近境タルニ依
テ木村父子僅ニ免レ佐沼ノ城ニ入テ是
ヲ守リ拒グ一揆ノ大勢佐沼ノ城ヲ圍ム
城中既ニ糧乏キ太ダ困窮ス

元二日 木村父子僅二佐沼ノ城ニ迫テ
一揆ノ多勢是シ圍ミ城中危急ノ由會津
ニ至テ風聞アリ氏郷聞テ兵ヲ催シ必定
ノ告ニ依テ軍ヲ發ヌ木村ガ難シ救ハシ
ト催ス
元六日 佐沼ノ一揆必定ノ由急シ告ル
ニ依テ氏郷軍ヲ佐沼ニ發セント欲ヌ家
臣小倉豊前守父与閑萬鉄齋蒲全左門蒲

生喜内北川平左衛門尉等シ會津ニ留テ
城ヲ守ラシム氏郷檄シ江戸ニ飛メ一揆
蜂起ノ由シ大神君ニ誣進ス亦由丸中
務太輔シ使トソ援兵シ正宗ニ請フ
元九日 氏郷ガ先隊會津ヲ發ス

十一月大
一日 氏郷三千餘騎ノ兵シ卒メ會津シ
首途ス前夜ヨリ深雪道シ埋テ會津ヨリ

猪苗代イノハニ至テ行程ギョウテイ三十里人馬ノ通路ツクロシ

絶ヒツス

五日 氏郷ウヂキョウ多勢タセツシメ雪ユキシ踏フミ分ワケケシメ猪

苗代イノハヨリ軍イクサシ出ス

六日 氏郷ウヂキョウ甚雨シジニ依テ姉島アチジマニ滞留タイリウス

七日 氏郷ウヂキョウ正宗サダムネガ領内レイナイニ本松ホンマツニ至ル正

宗ムネ一萬餘騎マンニョウキシ率ソツメ信夫郡シノブノ飯坂イハサカノ城シロニ至

ル氏郷ウヂキョウガ先陣マキアレイノ兵ヘイ同郡ドウクン録田ロクテン本折ホンセツ福島フクシマ邊ヘ

ニメ是キタリニ来會キタヒスルト云ヘトモ正宗サダムネ兼カミテ

志イソキシ一揆イツキノ兵ヘイニ通ツウズルノ間マヒ此所ココニ屯ツムシ

テ敢アハテ軍イクサシ出サス氏郷ウヂキョウ是ココシ推察スエサツメ進マシテ

二本松ニホンマツニ至リ大森オオモリノ城下シロカニ著ツクク氏郷ウヂキョウ使シ

ヲ正宗サダムネガ陣アレイニ發ハツメ謂イフテ云ク佐沼サヌマノ發ハツ向ムク

延引ノビス氏郷ウヂキョウ獨ヒトリ兵ヘイシ發ハツメ速スミヤカニ一揆イツキシ退治タイヂ

セント欲ホシスルノ旨ツケシ説トク正宗サダムネ是ココシ聞クテ

止ム事コトヲ得エズシテ軍イクサシ出ス

十七日 氏郷進テ黒川ニ至リ正宗ト来
會メ軍ノ謀ヲ議ス氏郷謂テ云ク明日ヨ
リ既ニ敵地ニ入ル我レ敢テ先途ノ案内
シ知ラズ葛西大崎ノ間ニ一揆ノ守ル所
ノ城其數如何程カ有ル正宗カ云ク是ヨ
リ佐沼ニ至テ行程百四十里
其間一揆ノ城高清水ト云アリ佐沼ヨリ
三十里ヲ隔リ此一城ノミニヌ其餘ニ一

揆ノ城ナシ氏郷聞テ然ルニ於テ八明日
黎明ニ兵シ大崎表ニ殺メ民屋ニ放火シ
先ツ高清水ノ一揆ヲ追散メ後佐沼ノ城
ヲ援ント正宗ニ是ヲ約ス
十八日 黎明氏郷正宗軍ヲ殺メ在々所
々ニ放火シ武威ノ近郷ニ震フ黒川ヨリ
三十里ノ間麻間中新田ノ兩城ニ一揆ノ
兵擁籠テ是ヲ守ルト云ヘトモ氏郷正宗

カ多勢競に來ルヲ聞テ城ヲ奔テ退散ス
氏郷其夜ハ中新田ニ陣シ正宗ハ其間ト
餘町ヲ隔テ古墨ニ屯ス中新田ヨリ高
清水ニ至テ行程六十里アリ今夜鷄鳴ノ時
軍ヲ發メ高清水ノ城ヲ攻捕ルベキノ旨
氏郷軍中ニ觸催ス其夜亥ノ刻ニ及テ正
宗使ヲ氏郷ガ陣ニ遣メ云ク我レ俄ニ病
痾タリ今夜ノ出馬延引スベキノ旨ヲ告

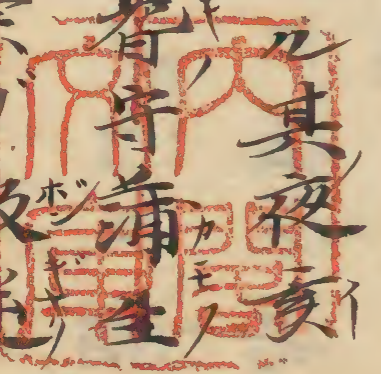
ル氏郷答云ク吾レ足下ノ出馬ヲ待タズ
今夜必ズ軍ヲ出メ高清水ノ城ヲ拔クベ
シト謂テ策テハ鷄鳴ノ時ニ至テ兵ヲ發
セント諸卒ヲ催スト云ヘトモ案内者ノ
正宗病ト稱メ軍ヲ出サズ氏郷ガ軍士等
先途ノ地利ヲ知ラズ是ニ依テ黎明ニ及
テ軍ヲ發セント重テ陣中ニ是ヲ觸レシム
十九日 早且氏郷軍ヲ發ス一陣ハ蒲生

源左衛門尉蒲生忠右衛門尉二陣ハ蒲生
四郎兵衛尉町野新三郎後陣ハ関忠五郎
殿ス正宗虚病ヲ構ルニ依テ氏郷是ツ疑
テ関忠五郎シメ正宗ガ陣シ拒ガシメ高
清水ニ赴ク具行程一揆ノ守ル城ナキノ
由正宗昨日語ルト云ヘトモ氏郷猶怠シ
ス列シ整正伍シ乱サス一揆ノ兵名全ノ
城ヨリ不意ニ起テ氏郷ガ先陣シ襲フ蒲

生源左衛門尉是ト奮戦フ一揆ノ兵狼狽
メ城ニ逃入ル源左衛門尉勝ニ衆メ進テ
城シ攻撃忽ニ二三ノ丸シ破ル氏郷後陣
ニ在テ是シ聞テ速ニ馳セ自ラ文ヲ採テ
士卒シ指揮メ城シ攻撃タシメ即時二本
城ヲ陷レ城兵五百八十餘人シ殺ス然リ
ト云ヘトモ氏郷ガ從士道家孫次郎栗井
八右衛門尉町野新兵衛尉田付理人等戰

死ス氏郷ガ後軍閔忠五郎伍シ整旦陣シ
堅メ正宗ガ後援シ拒グ正宗名全ノ城シ
援ント欲メ進ミ来ルト云ヘトモ城既ニ
陥リ閔ガ陣堅シ正宗為方テ使シメ氏
郷ガ武勇シ感メ氏郷ガ陣ノ左ノ野ニ屯
ス一揆ノ愚徒等氏郷ガ勇敢シ聞テ恐怖
シ古河松山ノ兩城皆是シ奔テ逃ケ去ル
正宗使シメ氏郷ニ謂テ云ク我レ病ニ依

テ名全ノ城ヲ攻ス京都ノ聞旦憚ルノ
旨ヲ陳謝ス氏郷答云ク京都ノ聞シ恐レ
憚ルニ於テハ幸ニ一揆ノ兵宮澤ノ城ニ
在リ是シ攻テ城ヲ陥レ軍功シ京都ニ達
シ其罪シノガルベキノ旨シ迷ル其夜刻
ノ刻ニ及テ正宗ガ從士須田伯耆守蒲生
源左衛門尉ガ陣ニ馳セ来テ正宗ガ叛逆
ヲ告ル氏郷是シ聞テ譜代ノ家人トメ至



ノ隱謀ヲ顯シ告ル事疑アリ若シ正宗彼
レシメ吾レシ謀ラシメント欲スルヲ知
ラズ其取謂シ能ク糾明スベキノ旨ヲ謂
テ源左衛門尉シメ詰問ス須田ガ云ク吾
カ亡父ハ輝宗正宗ニ仕テ忠シ尽ス是ニ
依テ一城ノ主トナル輝宗二本松ノ城ニ
メ卒去スルノ時我が父殉死ス連年ノ忠
切ト云ヒ亦輝宗ト死シ共ニス其忠義最

モ大ニ也然ルニ今我ニ於テ其賞微少
ニメ利アミツク上外ト様ノ群士ニ混雜ス故ニ深ク
恨ミテ憤リ止ム時ナシ是ニ依テ正宗シ
叛テ氏郷ニ屬シ其恨ヲ達セント欲ス是
シ聞テ氏郷疑心散メ須田シ招テ正宗ガ
隱謀ヲ問フ須田語テ云ク先日黒川ニ於
テ正宗來會ノ時謀テ氏郷シ撃ント欲ス
ルト云ヘドモ京都ノ咎メシ恐レテ猶豫

ス采詮一揆シ催シ所々ノ要害ニ蜂起セ
バ氏郷是ヲ攻撃ベシ于時一揆ノ兵ト約
シ定メ正東軍シ後ヨリ殺メ氏郷ヲ撃滅
シ氏郷一揆ノ為メニ命シ殞スノ由京都
ニ披露セント謀ルト云ヘトモ氏郷ノ勇
敢ニ依テ速ニ名主ノ城陥ル是ニ依テ正
宗謀シ失フ由シ告ル
佐沼ノ城シ相圍ムノ一揆等氏郷ガ後援

シ聞テ其武威ニ恐レ圍シ解テ退散ス是
ニ依テ木村伊勢守父子使シ名主ノ城ニ
叢メ告テスク氏郷ノ武威ニ恐レテ此城
シ圍ムノ賊徒等悉ク退散ス是ニ依テ必
死ノ圍ミヲ免ルト云氏郷聞テ心シ安ズ
佐沼大城漸ク糧尽ルノ由其聞上リ
二氏郷使シ佐沼ニ遣シ木村父子速ニ城
シ避ケテ氏郷ガ陣ニ来リ加ルベキノ旨

リ説カシム

廿二日 氏郷軍士三百餘人ヲメ木村父

子シ迎エシム

廿三日 木村父子氏郷ガ迎ノ兵ト伴テ

名生ノ城ニ至リ氏郷ニ來會メ後諾ノ勞

ヲ謝ス

氏郷使シ正宗ガ陣ニ遣シ宮澤ノ城ヲ攻

ルノ事延引ス敵強メ正宗城ヲ陷ル事

シ得スンバ氏郷軍シ殺メ攻テ即時ニ城

ヲ拔ント再三急シ告ルト云ヘドモ正宗

敢テ城ヲ攻ス其後正宗京都ノ聞エシ恐

レテ一揆ニ志シ通ゼザルノ旨シ氏郷ニ

陣謝スル事數回正宗遂ニ宮澤ノ城ヲ攻

ス兵ヲ収テ已ガ城ニ帰ル氏郷ハ猶名生

ノ城ニ在テ近邊ノ一揆ヲ鎮メ此所ニメ

越年メ京都ノ令シ待ツ

十二月小

浅野彈正長政奥別及じ甲斐信濃ノ檢地
早テ歸浴ニ赴キ駿河ノ府ニ至ルノ日奥
別一揆ノ告シ聞テ長政即此驛ヨリ再ビ
奥別ニ赴キ武州江戸ノ城ニ至テ
大神君ニ謁メ 台命ヲ伺ヒ江戸ヲ發メ
十二月中旬二本松ニ著ク奥別一揆御征
伐トメ 大神君軍ヲ出シ給フベキノ旨

諸士ニ觸レ催ル松平主殿助家忠シ召テ
命有テ曰居城忍ノ城ニ留テ近境ヲ指揮
スベキノ御旨シ蒙ル

大神君三河守秀康シ首將トメ 台旂ニ
先立テ奥別ニ赴カシメ給フ 榊原式部太
輔康政先驅タリ正宗是シ聞テ身ノ難シ
道レンガ為メ僅ニ重寶片倉等ヲ携ヒ浅
野長政ガ二本松ノ陣ニ來テ誤ナキノ旨

シ陳ス長政聞テ是ヲ諾メ云ク足下異心
ナキニ於テハ家臣重實成重ヲ質トメ氏
御ガ陣ニ遣シムベシ正宗是ニ從フ長政
使シ名生ノ城ニ遣シ今度ノ氏御ガ武勇
シ感称ス

七八日 正宗ガ質重實成重名生ノ城ニ
至ル氏御是ヲ請取ル
奥列ノ一揆蜂起ノ由京都ニ至テ証進

ルニ依テ秀吉自ヲ帥テ奥列ニ發向
セントト催ス先ツ石田治部少輔三成シメ
江戸ニ赴カシメ 大神君ノ御進發ヲ請
テ其レヨリ岩城相馬ニ至リ佐竹右京太
夫義宣ヲ催シ正宗ガ領内伊具由利柴田
口ヨリ兵ヲ發メ攻入ルベキノ旨ヲ詔シム
元九月 台徳院殿從四位下ニ叙シ給フ
此年酒井雅樂頭忠世 大神君ノ 鈞命

シ蒙テ台徳院殿ノ家光トナリ
此年太田新六郎重政道灌ヨリ始テ
大神君ニ謁ス

天正十九年辛卯

正月大

一日奥州一揆蜂起ニ依テ是ヲ退治セ

シカ為メ秀吉ノ旨シ受テ秀次今日清洲
ノ城ヲ殺ス

二日蒲生飛騨守氏郷木村伊勢守父子
シ携テ名生ノ城ヲ殺メ會津ニ赴ク

五日奥州一揆御征伐トメ大神君
江戸ノ城御首途此日岩付ノ城ニ著御

九日下野守忠吉後薩摩大坂ヨリ江戸
ニ帰リ給フ

十日 秀次ノ先陣相別早川ニ著ク
此日石田治部少輔三成相馬ニ至ル于時
奥別ノ一揆悉ク退治メ氏郷兵ヲ収テ會
津ニ歸ルノ由其告シ聞テ三成是ヨリ歸
洛ニ赴ク

十一日 大神君岩付ノ城ヲ出給ヒテ古
河邊ニ御進發アルベキ旨 命セラレ
ノ處ニ奥別ノ一揆等氏郷是ヲ退治シ悉

ク平均メ氏郷ハ會津ニ歸リ長政モ亦歸
洛ニ赴クノ由註進アルニ依テ 大神君
奥別表ノ御進發ヲ止ラル
十三日 大神君岩付ヨリ江戸ノ城ニ還御
十四日 秀次武別府中ニ至ル秀次ニ御
對顔ノ為メ 大神君府中ニ渡御アリ
十九日 來ル廿二日 大神君御上洛
ルベキノ由シ諸士ニ 命セラレ

廿二日 大神君今日ノ御上浴故有テ御
延引アリ是レニ依テ諸士登城スベキ
ノ旨 鈞命アルニ依テ松平主殿助家忠
城ニ登テ 大神君ニ謁ス

閏正月小

三日 大神君江戸ノ城御首途浴ニ赴セ
給フ

十二日 蒲生飛騨守氏御浴ニ入テ秀吉

ニ謁見ス于時秀吉謂テ云ク今度奥別ノ
一揆蜂起メ佐沼ノ城ヲ圍ミ木村父子難
儀ニ及ブノ處ニ氏郷ガ武器ニ依テ彼レ
ヲ援ケ其難ヲ免レ奥別平均ニ靜謐ス速
成ノ切神妙ノ旨秀吉大ニ是シ感称ス
十五日 大神君御入浴

三月小

三日 大神君浴シ出給テ江戸ニ還ラシ

ト赴^{シモム}キ給フ

元一日夜ニ入亥ノ刻 大神君京都ヨ
リ江戸ノ城ニ還御

六月小

七日 大神君来月中旬奥列表ニ御進發
アリ兼テ軍用シ調上發向ノ命シ待ツ
ベキノ旨諸將ニ觸シメ給フ南都大膳太
夫信直ガ臣九戸修理亮政實南都大膳太秀吉

シ叛テ信直ニ從ガハス奥列ノ浪人数千
人シ招キ集テ近郷シ掠メ畧ス在國ノ諸
將等是シ割スル事ヲ得ズ是ニ依テ

大神君奥列ニ御進發アルベキノ旨也松
平主殿助家忠 大神君ノ命シ奉テ忍ノ

城ニ在テ近邊シ拒グ

七日 蒲生飛騨守氏初九戸退治ノ先陣
シ奉テ京都シ發メ會津ニ歸ル

七月大

十日 秀次奥別發向トメ清洲ノ城ヲ首途ス

十九日 大神君師シ帥テ江戸ノ城ヲ御

進發アリ此日岩付ノ城ニ著御

廿四日 蒲生飛騨守氏郷ニ萬餘騎ノ兵

シ率メ會津シ發メ南郡ニ赴ク 大神君

ヨリ井伊兵部少輔直政秀吉ヨリ凌野驛

正長政秀次ヨリ堀尾帶刀吉晴援兵トメ

氏郷ガ陣ニ加立シメ給フ

九月小

一日 氏郷カ先陣蒲生源左衛門尉蒲生

忠右衛門尉九戸カ子城宛太井ノ城ヲ攻

ム城兵矢ヲ發シ火炮ヲ飛メ防キ戰フ源

左衛門尉カ從士石黒喜久坂九久等進

戰テ死ス忠右衛門尉カ兵谷崎三十郎先

登メ城ヲ破ル関右兵衛尉遊軍トメ陣ヲ

後ニ備ル敵城中ヨリ免レ出テ関ガ陣ニ
切テ懸ル関士卒シ指揮メ敵シ圍ニシメ
一人モ洩サズ是シ擊捕ル宛太丹近邊根
曾利ノ城ヲ守ルノ敵宛太丹ノ城ヲ救ハ
ント欲メ其兵三百餘騎宛太丹ニ進メ来
ル氏郷ガ臣田丸中務太輔及ビ門屋助左
衛門尉寺村半左衛門尉森民部太輔梅原
弥左衛門尉新團上總今等軍ヲ殺メ是ト

戰フ敵狼狽メ敗走ス其利ニ乘メ直ニ九
戸ガ居城シ圍ム九戸ニ志シ通ル櫛引ノ
某已ガ城ヲ奪テ九戸ト一所ニ集テ城ヲ
守ル井伊兵部少輔直政氏郷ト武勇シ爭
ヒ進テ力戰シ互ニ軍功シ盡ス淺野彈正
長政堀尾帶刀吉晴中村弥平次等擲午ニ
廻テ急ニ政擊進テ城門ノ橋ニ至テ攻入
ル城兵出テ拒ク事シ得ズ門ヲ閉テ堅ク

守ル故ニ此日城ヲ救ク事ヲ得ズ大手搦
手ノ諸將城兵ノ首ヲ得ル事千餘級
七日夜ニ入賊將政實竊ニ淺野彈正長政
ガ陣ニ来テ謂テ云ク吾カ主南部大膳
太夫信直ニ本領ヲ賜ルニ於テハ降シ乞
テ城ヲ避ケ渡スベシ長政是ヲ諾ス
八日長政遂ニ城ヲ請取テ九戸政實及
比搦引ノ某ヲ三ノ丸ニ招キ出シ軍エシ

メ堅ク是ヲ守ラシメ城兵數百人ヲ三ノ
丸ノ櫓ニ追ヒアゲ火ヲ放テ是ヲ燒キ殺
ス千時秀次三ノ迫ニ至ル淺野長政九戸
搦引等ヲ携卫會津ニ赴カント欲ス秀次
是ヲ咎メテ云ク將ノ命ヲ奉スメ是ヲ宥
ルハ令ニ背ク也ト怒テ速ニ三ノ迫ニ於
テ九戸搦引ヲ殺サシム千時大神君ハ
岩手澤ニ御陣座アリ九戸搦引ヲ誅伐ス

ルノ由此所ニ至テ詮進アリ
秀次 大神君ノ台命ヲ伺ヒ奥州ノ制法
シ定テ手泉ニ至リ此所ニ遊覽又歸浴ニ赴

十月大

廿七日 大神君岩手澤ヨリ古河ニ還リ給フ

廿九日 大神君江戸ノ城ニ御凱旋

本村伊勢守領内ノ一揆ヲ退治スル事シ
得ズ其罪ニ依テ所領ヲ没収セラル正宗

今度悪徒ニ志シ通スルノ由具聞上有ル
ニ依テ本領ヲ減メ葛西大崎ニ移サレ正
宗ガ本領羽州長井郡奥州田村塩松伊達
信越前田ヲ以テ氏郷ニ加賜セラレ旧領
合テ百萬石糠夫シ南部大膳太夫ニ賜ル
秀吉正宗ガ本領ヲ減メ其地シ氏郷ニ與
ル事正宗是ヲ姑ミ憤テ舊目タルノ故ニ
伊達信越前田塩松田村取々ニ一揆ヲ催

シ氏郷ヲ襲ヒ撃ント謀ル于時正宗が家
人山田八兵衛尉牛越内膳正二人正宗シ
背テ氏郷ニ屬メ此企シ告ル故ニ氏郷時
日ヲ移サズ速ニ兵ヲ發メ一揆ノ惡徒等
ヲ取々ニ於テ殺害ス是ニ依テ其企成ラ
ズ氏郷ガ領内靜謐ス
此月秀吉朝鮮征伐ノ事ヲ諸將ニ議ス
此月大神若閑宿隣郷ニ於テ食邑二萬

石松平三郎太郎康元ニ加賜セラレ旧領
合テ四萬石シ賜ル五屋惣藏忠直後ニ民部少輔
ト号相別祢宣打村ニメ食邑シ賜ル
十一月大

大神若閑左八別寺社領ノ印シ賜ル其中
ニ上總國市原郡八幡宮ニ御自筆シ以テ
賜ル

寄進 八幡宮

上総國市原郡八幡郷内

百五十五石事

右必久親とて家跡に流当此旨孫拙武運

長久之精減村一当祭礼と状出件

十一月日

上総國市原庄

八幡郷

寺いぐ田

九うちを

村上

屋まき

たひ

符付

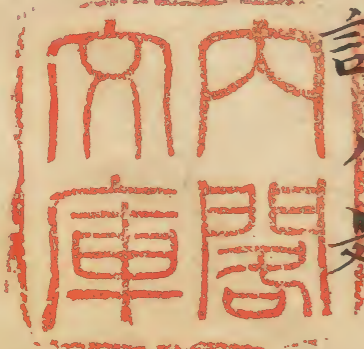
こまよ

已上

十二月小

廿八日 秀吉俄ニ関白シ秀次ニ譲ル是

ヨリ世ニ秀吉シ称メ太閤ト云フ



Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

